

【主な出来事】

- キク首相は、就任後初の外遊先としてロシアを訪問しメドヴェージェフ露首相と会談。
- 2020年予算政府原案が閣議決定された。財政赤字は約4.2億ドル。

1. 内政

▼新政府、新たな社会保障措置を発表

- ・18日、ドドン大統領、キク首相及びグレチャヌ議会議長は共同記者会見を行い、政府が直ちに以下の措置を執ること発表した。
- ・62500人の年金生活者に冬季の補助として一律700レイを配布
- ・物価上昇に伴う年金の見直しを年二回とするための法改正
- ・冬期支援の補助金を350レイから500レイへの引き上げ(対象家庭の増を含む)
- ・配偶者死亡後5年間は死亡した配偶者の年金をそのまま受け取ることができるための法改正
- ・アフガニスタン及びトランスニストリアでの紛争の退役軍人に対する月額年金引上げ
- ・村落で働く若手医師及び薬剤師等に対する給与の引上げ

▼新検事総長を選出

- ・29日、ドドン大統領は、新しい検事総長としてストヤノグロ氏を任命した。公募で選出された4名の候補者を検察最高評議会が面接を行い、候補者の中で最高得点を獲得したストヤノグロ氏が最終候補者として指名された。
- ・サンドゥ前首相は、ストヤノグロ氏の任命は社会党と民主党的取引の結果であるとし、検察の独立を保障できるか疑問であると述べた。

▼ガイチュク国防相に対する不信任決議案の提出

- ・29日、ACUM所属議員は、ガイチュク国防相の不信任決議案を議会に提出した。ポプショイPAS副党首は、提案理由としてガイチュク国防相はウクライナの分離主義者達を支持している旨説明した。

2. 外政

▼キク首相のロシア訪問

- ・20日、キク首相は就任後の初の外遊先としてロシアを訪問し、メドヴェージェフ露首相と首脳会談を行った。キク首相には、チョコイ外務・欧州統合相、ウサトゥイ経済・インフラ相、ペルジュ農業・地域発展・環境相、ブラフ・ガガウズ自治区長官、チェバン・モルドバガス社長らが同行した。
- ・同日帰国したキク首相は、ロシア訪問の成果として以下を挙げた。
- ・2020年1月からのガス供給価格の引き下げに合意。

- ・ロシア側は、仮にロシアとウクライナ間で合意に達せずウクライナ経由でのガス供給が困難となる場合であってもモルドバへのガス供給を保障するとした。
- ・インフラ投資プロジェクトのための5億ドルの融資枠についてロシア側と原則合意。
- ・ロシア向け輸出品目の約70%を非関税とすることに合意。
- ・ロシア市場で活動できるモルドバ輸出業者数を拡大することに合意。
- ・ロシア市場で運輸業者に対する営業許可が十分付与されていなかった問題について解決。
- ・コバスナ地域(トランスニストリア)に保管されているロシア製弾薬の利用に関するイニシアチブの実施について準備を進めることに合意。

▼サンドゥ前首相、欧州人民党大会に出席

- ・20日、サンドゥ前首相は、クロアチアで行われた欧州人民党の大会に出席した。同会合でのスピーチにおいて、モルドバにおける民主主義と法の支配は後退したとしつつも、次期大統領選挙の実施とともに挽回のチャンスがあると述べた。この機会にサンドゥ元首相はメルケル独首相と会談した。

▼グレチャヌ議会議長、CIS議員総会に出席

- ・21日、グレチャヌ議会議長は、モルドバ議員団代表としてサンクトペテルブルクで行われている第50回CIS議員総会に出席した。グレチャヌ議長は、同会合のマージンでマトヴィエンコ露連邦院議長、Nigmatulin カザフスタン議会議長らとそれぞれ会談した。

▼キク首相、EBRD投資フォーラムに出席

- ・22日～23日、キク首相は、ロンドンで行われたEBRD東方パートナー投資フォーラムに参加した。キク首相は、会合のスピーチにおいて、高付加価値品の生産、農業パフォーマンスの向上、雇用機会の増加に向けて経済を転換していく必要がある旨強調した。また、会合のマージンにおいてキク首相は、ホンチャルク・ウクライナ首相、ルマス・ベラルーシ首相、アサドフ・アゼルバイジャン首相らとそれぞれ会談を行った。

▼ドドン大統領、ヨハニス・ルーマニア大統領に祝意

- ・25日、ドドン大統領は、ルーマニアの大統領選挙で勝利したヨハニス大統領に対し祝意を表した。

▼チェバン・キシニョフ市長、モスクワを訪問

- ・29日、チェバン・キシニョフ市長はモスクワを訪問し、ソ

ビャーニン・モスクワ市長と会談した。両市長は、都市計画、建築、交通、福利厚生、教育、住宅建設といった分野での経験について意見交換を行った。また、チェバン市長はコザック副首相と会談し、経済、社会、文化、教育分野のキシニョフとロシアの地方都市との協力について話し合った。

3. 経済

▼ドドン大統領、中国建設会社トップと会談

・20日、ドドン大統領は、中国の建設会社 China Hyway Group Limited の Hu Jaminem 社長と会談し、同社長は、キシニョフ環状道路の建設を含め、モルドバのインフラプロジェクトに投資する用意がある旨述べた。

▼ムーディーズ、モルドバの格付け「安定したB3」維持

・25日、格付け会社のムーディーズはモルドバの信用格付け「安定したB3」の維持を発表した。一方で、農業部門の気候条件に対する脆弱性や海外からの送金に依存する経済構造を反映し、経済成長は依然として不安定であると評価。また、同格付けは、政治的リスクが増加し、IMFプログラムに基づく改革の遅延や財政政策の反転によって、下方修正される可能性があるとした。

▼キク首相、IMFミッションと会談

・25日、キク首相は、当地訪問中のアトヤンIMF代表団長と会談した。キク首相はモルドバにとってのIMFの支援の重要性を指摘しつつ、モルドバとIMFとの協力を拡大する新しい方策を話し合うことについて我々はオープンであると述べた。アトヤン団長は、IMFはモルドバによる改革の実施を引き続き支援する用意がある旨述べ、それは金融・財政等の部門でモルドバ政府が改革を進展させ、不正銀行送金事件の捜査を進めることで可能であると述べた。

▼USAIDモルドバ担当局長の来訪

・27日、プシュクツツァ財務相は、エリスUSAID欧州ユーラシア局上級次長と会談した。エリス次長は、USAIDとしては引き続きモルドバを支援する意向を示すとともに、新規プロジェクトの実施にも意欲を示した。

▼2020年予算の政府原案を閣議決定

・27日、政府は2020年の国家予算の政府原案を閣議決定した。

・歳入441億レイ(25.2億ドル)、歳出515.5億レイ(29.5億ドル)、財政赤字74億レイ(4.2億ドル)。(社会保障・医療保険掛金及び支出等を含めると歳入692億レイ(39.5億ドル)、歳出766億レイ(43.8億ドル))。

・予算案は、GDP成長率3.8%、インフレ率5.7%、輸出成長率9.1%、輸入成長率7.1%、平均給与7,953レイ(454ドル)などを指数として計算されている。

・キク首相は、2020年予算案は「投資、雇用創出、福祉の成長」予算案であるとした。

▼2020年財政赤字の補填財源

・27日に閣議決定された2020年予算政府原案は、74億レイ(4.2億ドル)の赤字予測で、現時点では以下の財源で補填が見込まれている。

・国内財源:国債の発行20億レイ(1.14億ドル)、民営化7億レイ(40百万ドル)、破産銀行の資産回収2億レイ(11.4百万ドル)。

・外部財源:外債等93億レイ(5.3億ドル)、2020年の主な見込みとして世銀の29億レイ(1.66億ドル)、EBRD 18億レイ(1.02億ドル)、EIB17億レイ(97.1百万ドル)、ロシア及びベラルーシから15億レイ(85.7百万ドル)、IMF2.2億レイ(12.7百万ドル)、EU4.5億レイ(25.8百万ドル)。

・2020年時点の対外債務の累積予測は、418億レイ(23.8億ドル)。過去10年で最高レベル

▼世銀、モルドバの経済成長率予測3.6%を維持

・29日、世銀は、2020年のモルドバGDP成長率予測3.6%(モルドバ政府予測3.8%)、2021年3.8%を維持すると発表した。

・これらの数値は、給与と年金の伸びに支えられた投資と消費需要の増加によるもの。また、年間インフレ率は、2020年4.4%、2021年5.1%の見通し。

・但し、良好なマクロ経済の見通しにもかかわらず、下振れリスクは存在し、EU経済の減速、継続的な政治的不安定がマクロの見通しと財政の持続可能性に影響を与えるとした。

各種統計

▼2019年1～9月の工業生産

・18日、国家統計局は、2019年1～9月の産業活動に関するデータを発表。工業生産は対前年同期比2.7%増となった。内訳は、加工業3.1%増、電気、ガス、温水、空調等0.7%増、採掘業1.5%減など。

▼2019年1～9月のモルドバのワイン輸出

・19日、2019年1～9月のモルドバワインの輸出は67か国に対して、113.8百万リットル、2.18億レイ(12.5百万ドル)となることが明らかとなった。これは過去5年で最高。

・ルーマニア向け売上は、161百万レイ(9.2百万ドル)でトップ、続いて、中国向け154百万レイ(8.8百万ドル)、ロシア向け110百万レイ(6.3百万ドル)の順。

▼2019年第3四半期の名目平均賃金422ドル

・25日、国家統計局は、2019年第3四半期の名目平均賃金が7,385レイ(422ドル)、対前年同期比13.5%増になったと発表した。公務員の平均月収は、6,456レイ(369ドル)、対前年同期比14.8%増、民間は7,727レイ(442ドル)、前年同期比12.9%増)。

▼2019年10月末の公的債務約30億ドル

・25日、2019年10月末のモルドバの公的債務は525.6億レイ(30億ドル)に達したことが明らかとなった。これは、年当初より548.5百万レイ(31.3百万ドル)、1.1%増。増加の主な原因は、671.3百万レイ(38.36百万ドル)の対外債務増。

▼2019年10月の海外送金微減

・25日、国立銀行は2019年10月の海外からの送金額は10.4百万ドル、対前年同月比0.6%減となったと公表。

・2019年1～10月、累計送金額は10.13億ドル、前年同期比5%減。

・送金元は、ロシア20.2%、イスラエル17%、イタリア12.1%、ドイツ9.1%、米国6.7%。

▼2019年1～9月のモルドバの建設業

・26日、国家統計局は、2019年1～9月に、6,593戸のアパート及び個人住宅が建設され、総床面積499.8千m²となった(前年同期比58.7%増)と発表。内79%が首都で建設された。

▼2019年1～9月のモルドバ携帯電話市場

・29日、モルドバ電子通信・情報技術規制庁によれば、2019年1～9月の携帯電話市場の総売上は24億レイ(1.37億ドル)、前年同期比2.3%減と発表した。9月末現在の国内シェアは、オレンジ63.9%、モルドセル30.3%、モルドテ

レコム5.8%。

4. 対日関係

▼草の根・人間の安全保障無償資金協力引き渡し式の開催－スンジレイ地区病院医療機材整備計画

・22日、平成27年度の草の根・人間の安全保障無償資金協力「スンジレイ地区病院医療機材整備計画」の引き渡し式が開催された。同署名式には、コルコデル・スンジレイ県知事及びブルンザ同病院長他、病院関係者が出席した。

・今回の協力では、手術台や手術用照明装置等の購入に総額87,000米ドルの支援が行われた。

(了)